

## 令和4年度 第4回中井町学校運営協議会会議録

日 時 令和5年3月15日(水) 18:00~20:00  
場 所 中井町立中井中学校 コンピュータ教室  
出席者 学校運営協議会委員、中井町教育委員会指導主事、  
各学校事務局(教頭、担当教員)

司会・進行 中井中学校教頭

### 1 開会

### 2 会長挨拶

本会議も昨年発足して1年が過ぎようとしている。コロナウィルス感染症も現在は落ち着いてきており、このまま終息して子どもたちがのびのび生活できることを望んでいる。

中井中学校長が発行している授業だより「こねくと」に掲載されていた、7月のオ戸交差点の交通事故で中学校生徒が交通整理や通行する車への情報提供をした件では、地域の方やバス運用会社から感謝されたとあった。このように地域の方々が子どもたちを見守ってくれているということは、私たちが行っているコミュニティースクールの理念にも合致することである。地域の皆様が見守ってくださっていることを大切に、そんな視点で私たちも学校と一緒に子どもたちを育てていけるようご意見をいただけるとありがたい。本日はよろしく申し上げます。

### 3 協議(進行 廣澤瀧男 会長、野本英里 副会長)

#### (1) 学校評価について

##### ① 中村小学校(大庭菜穂子 校長)

- ・設問①(学校教育目標)は、校内に「豊かな心(仲良く、思いやりのある子)」「確かな学び(夢中になって学習する子)」「健やかな体(力いっぱい健康づくりに取り組む子)」を掲示している。
- ・設問②(開かれた学校)は、PTA活動、レクリエーション、授業参観が高い肯定率につながっているので、これからも伝えていきたい。
- ・設問③(いじめ対策)は、子どもたちをよく見て、アンケートを実施し、学校全体がチームとなって取り組んでいる。
- ・設問④(生活の充実)は、わかる授業、楽しい取り組み、行事や体験を通して進めている。
- ・設問⑤(読書)は、家庭、保護者の肯定率が高くない。読書タイムや読み聞かせボランティアなどを活用しもっと進めていきたい。
- ・設問⑥(異学年交流)は、縦割り清掃や遊び、交流を通して、やさしく接する場面が良く見られた。
- ・設問⑦(確かな学び)は、ICT機器を取り入れ、基礎基本を大切にしたい。

授業を行っている。

- ・設問⑧（評価）は、見通しを持った学習を行い、何をどのように評価しているかを伝えていきたい。
- ・設問⑨（地域学び）は、色々な地域の行事を通して、感染症対策をしながら取り組んでいる。
- ・設問⑩（あいさつ）は、実践的な指導をしており児童の意識が高い。
- ・設問⑪（説明学習）は、保護者の協力を得ながら取り組んでいる。
- ・設問⑫（食育）は、給食センター（栄養教諭）の協力や給食メールで進めている。
- ・設問⑬（安全教育）は、避難訓練の事前と事後の指導を通して充実を図っている。
- ・設問⑭（体力づくり）は、自分のめあてに向かって取り組める児童を育てていきたい。実際には進んで運動に取り組む児童とそうでない児童の二極化が見られる。

これらの評価や意見を、これからの教育活動に生かしていきたい。

#### ②井ノ口小学校（加藤彰吾 校長）

- ・15項目中13項目が肯定率80%を超えている。
- ・設問⑩（読書活動）は、教師・児童は90%に達しているが、保護者が50%と低い。読書の楽しさを伝えられるように、ボランティアさんとも連携し、推進している。学習状況調査のメディア利用のアンケートから、平日4時間以上使用している児童が21名で、休日4時間以上使用している児童に至っては45名であり、家庭学習とのバランスが悪い。
- ・設問⑨（家庭学習）は、町が推奨している家庭学習時間である【学年×10分+10分】であるが、全学年でその時間を超えていない。メディア使用時間とのバランスが悪く、家庭学習の習慣化が必要である。
- ・設問⑪（生活習慣）は、メディア使用時間が多い。働いている等の保護者が帰宅するまでの時間が多いようだ。また、早寝・早起き・朝ごはんができていない児童が29名いるのも課題である。
- ・設問⑧（学校に行くのが楽しい）は、保護者の肯定率が74%と低く感じるが、昨年度に比べて6ポイント上がっている。感染症対策をしながら、地域の昔遊び名人や企業などの指導を仰ぎ、学ぶ機会を高めてきた結果である。
- ・設問⑬（健康）は、児童の肯定率は高い。メディアの使用が多く睡眠時間が減ったり、視力低下が懸念されたりする。子どもたちが何でも相談できる環境を作っていきたい。

#### ③中井中学校（岩渕和信 校長）

- ・設問①（教育目標）は、生徒の肯定率が52%と低い。行事や集会で校長の話のたびに「受ノ心」を紙に書いたものを見せてきたが、それでも低い。「学校のめざす子どもの姿を知っている。」かという設問と、「受ノ心」

が一致していないのかもしれない。

- ・設問③（授業）は、生徒は高い肯定率を示しているが、保護者が59%と低い。
- ・設問④（家庭学習）は、生徒、保護者とも肯定率が低い。小学校が取り組んでいる説明学習を中学生になっても進めていきたい。
- ・設問⑨（読書週間）は、全てで低い。また、授業日より「こねくと」の裏面でも、自分が読んだ本の印象深かったところを紹介している。
- ・設問⑩（情報提供）は、たよりが家庭に届いていないのではないかと。担任が紹介しながら配付するなど工夫していきたい。
- ・設問⑪（地域との関わり）は、薄くなっている。「地域を見て歩く」は好評である。職場体験を復活していきたい。

## （2）来年度の学校運営に向けて

### ①中村小学校

- ・学校評価（の分析）を受けて、「仲良く思いやりのある子」を重点として取り組んでいきたい。
- ・児童の90%は、先生が話を聞き、対応してくれていると評価していると答えている。これからもよく見守り、相談し、早く発見し、組織的に対応していきたい。
- ・読書に関しては、保護者4割、児童6割と進んでいない。朝の時間を生かして、興味関心が高まるよう、ボランティアの協力を得ながら、家庭に発信していく。
- ・学習については、児童の意欲はある。「できた・わかった」となるようICT機器を活用して、深い学びにつながるよう、職員研修を充実させる。また、説明学習の効果を家庭に伝えていく。
- ・健康面では、食育、保健、健康教育の充実を図りたい。

### ②井ノ口小学校

- ・学校評価や実態を踏まえ、子どもも地域も一緒に取り組んでいく。  
これまでの取組の中で感じた大きな変化が、11月に行われた井ノ口フェスタ2022である。  
ここでは、子どもたちが運営に携わり、6年生がリードして進められた。6年生の全員が役を持ち、リーダーとして下級生を引っ張った。進行や移動の説明を、パワーポイントを使って行うなど、上級生の頑張りで、下級生が楽しむことができた。  
特に成長を感じたことが2つある。1つ目が子どもたちの主体性と責任感であり、2つ目が学年を超えたつながりである。この「つながり」を通して、子ども、教師、家庭、地域がつながっていききたい。
- ・スローガンに「あったかい」を掲げる。これは、児童同士の傷つける言葉があるので設定した。人権意識を高め、みんながつながるように指導していきたい。

- ・メディア使用のバランスをとるに関しては、現在検討中である。

### ③中井中学校

- ・「受けとりあって生きる」「受ノ心」の掲示物を大きくする。  
町内に中学校が一枚しかなく、高校もないので、中学校を卒業すると町外に出ることが多い。今年の町の出生率が低いことも聞いている。中井町としては危機的状況と思われる。大学や就職で中井町に戻ってこない子どもも多くいると思うが、自分が育った場所とのつながりを持てることは強みとなる。中学校は中井町を学ぶ最後の砦として大切な記憶を残せるよう、子ども、家庭、地域と受けとりあって取り組んでいきたい。
- ・来年度の重点課題を3つあげる。
  - 受けとりあうことを中心とした教育目標に取り組む。
  - 授業と家庭学習の充実を、校内研究で進める。
  - 毎日の朝読書の時間を5分から10分に延長する。本の紹介もしていく。

### (3) その他

来年度の学校運営協議会の取組等について、委員同士での話し合い（熟議）

#### ① ルール

- ・なごやかに ・相手の話をよく聞き ・否定や批判をしない
- いろいろな意見を出す → キーセンテンス（キーワード）を付箋に書く
- まとめる → 中井町が求める子ども像 → 令和5年度の目標

#### ②進め方

今の状況を出し合い、どんな子どもになって欲しいか どんな大人になって欲しいかにまとめる。

#### ③そのための熟議とは

熟考し議論する 問題解決の手立て

#### ④コミュニティースクールの方向性

小中9年間、こども園を含めて15年間を見通した健全育成のため

<各グループから 情報共有>

#### 【Dグループ】

- こども園で基礎的な身に付けるほしいこと
  - ・あいさつができる ・物事に興味関心を持つ ・人の話を聞ける などをもとに
- こんなことを通して
  - ・自分を大切にできる ・様々な価値観 ・保護者を巻き込み ・時間の使い方
- つながりをもって
  - ・中井町 地元愛
- こんな人になりたい
  - ・強い心を持ってたくましく生きる ・人の気持ちを理解する優しさ

- ・自信や誇りを持って ・受ノ心

#### 【Cグループ】

- 子どもの現状：主張ができる、よく遊ぶ（もっと遊んでもよい）
- 町の状況：生まれる数が少ない、外に出る人が多い、町民が7000人になるのでは
- つながりがある町
- キーワード  
自ら 考え実行でき 町が好き ふるさとLove 自慢できる  
自然 人のつながり よさ いろんな世代で

#### 【Bグループ】

- すばらしいところ
  - ・人懐っこい ・あいさつができる ・よく行事に参加する
- 頑張してほしいところ
  - ・指示待ち ・家庭学習読書 ・運動（能力）歩いてほしい
  - これらは、地域の特徴につながっているのでは
- 本からタブレットへの変化
  - ・根気がない→ 達成感を味わわせたい→ 大人や地域との関わりで
  - 「子どもも大人も一緒に楽しめる地域を作れる そんな子どもと大人に」
  - 良いサイクルができるのではないか

#### 【Aグループ】

- 子どもは純朴 助け合い
- 町に関心を持ち、話をよく聞いてあげる
- 下級生への気遣いができる
- 挨拶ができるが学年が上がるにつれて声が小さくなる 自信のなさか？
- 自信をつけさせるのは 自分から挨拶できるのが一番やりやすい
- 挨拶運動 地域の声 ありがとうが言えるよう
  - ・自信を持たせる 自分から動ける子
  - ・素直な心 たくましさ
  - ・故郷の良さを学んで、感じて欲しい 地域の方 人材を紹介し 生かす

#### <熟議のまとめ> 堀田 清敏 指導主事

- ・キーワード つながり 大人と子ども 地域と学校と家庭
- ・町の魅力を知る
- ・中井町コミュニティ・スクールの「目指す子ども像」については、グループ協議の内容をふまえて作成する。
- ・熟議を通して 子どもを語れる場になった

(4) 連絡事項等 特になし

(5) 閉会